

1 大会山域について

井原山は標高 983m で脊振山系第 2 の高峰。オオキツネノカミソリやコバノミツバツツジの群生地として知られるほか、春から秋まで様々な植物が観察できる「花の名峰」として登山者に親しまれている。井原山の中腹にはいくつかの滝があり登山ルートには落差 13m のアンの滝がある。また、現在立ち入り禁止になっていますが水無鍾乳洞があり付近では石灰岩が多くみられる。また、岩の形がフクロウの形に似たこうぞう岩と呼ばれる岩がありその下から湧水が出ている。脊振山系は全長 70km 以上の稜線があり西は十坊山から東は基山まで 15 の山頂があり非常に長い稜線になっている。また、日本に 2 つある標準電波送信所のうちの 1 つが羽金山に設置されている。

曲渕水源池は大正 12 年にできた福岡市内で最も古いダムで、緑に囲まれ水に映る木々の景色が素晴らしく昭和 60 年、厚生省の『近代水道百選』に指定された。

2. 大会コースのルートガイド

昨年度までの大会ルートから三瀬峠手前で最近整備された鉄塔尾根ルートに変更している。鉄塔尾根ルートは整備されているが、踏み跡がまだ少なく道迷いしないように慎重に下山する。太字・下線部は主要地点です。

瑞梅寺山の家を右に曲がり出発する。車道を下っていくと左が瑞梅寺ダム・右がキトク橋の丁字路になる。

右へ曲がり車道を進むと左に**キトク橋**・正面に駐車場・右に登山口があり右の登山道を進む。キトク橋からしばらく登山道を進むと車道に到着するが、この区間に木道を渡り、沢を渡渉する地点がある。

車道を横断し再び沢沿いの登山道を進んでいくと**アンの滝**に到着する。この区間も沢を 2 回渡渉するが新しく木橋が架けられている箇所もある。

登山道を進むと左に**水無鍾乳洞分岐 1**・右に井原山山頂分岐があり井原山頂に進む。

登山道を進みしばらく進むと第一ベンチが見えてきてここから九十九折の急登になる。九十九折を終えると第二ベンチがある。そのあとも尾根に出るまでは急登がつづく。尾根付近になるとクマザサが登山道付近に生い茂っている。

左側に**水無鍾乳洞分岐 2**、右側に井原山頂案内があり右側に進む。ここから山頂までは緩やかな尾根道になり、ヤブツバキやリョウブ等の自然林がみられ石灰岩もみられる。

脊振山脈の尾根道が近づくとコバノミツバツツジの群生がある。右に**雷山山頂分岐**、左に井原山山頂分岐の丁字路を左に進み**井原山**山頂に到着する。



井原山山頂は360度の展望があり北側は糸島市・福岡市、南側は佐賀市・有明海の先に天気の良い日は雲仙まで見えることもある。

井原山頂から5分ほど進むと左手に**水無鍾乳洞分岐**がある。このルートは水無鍾乳洞を通過して野河内溪谷に降りるルートである。そのまま直進するとクマザサが生い茂り道をふさいでいる箇所もあるので注意して歩いていく。

しばらく進むと**新村分岐**に到着する。ここは十字路になっており右が新村分岐、左が水無鍾乳洞になっている。

そのまま直進して三瀬峠方面に進むと登山道の左側に693mのピークがあり鉄塔尾根ルートとして整備されている。

新しく看板が設置されているので確認して**693mピーク**を通過する。ここから鉄塔尾根ルートになり野河内方面へ下っていく。この区間の登山道ははっきりしているが、まだあまり登山者が踏み入れていないため、植林された杉の間に間違えて踏み入らないように注意する。

649mピークの前に炭焼きの尾根道を経由して野河内溪谷に進む**炭焼き尾根道分岐**があるが直進して649mピークへ向かう。

ピークを通過しそのまま尾根道を進んでいくと左に**中級訓練コース分岐**、右に鉄塔尾根分岐の看板が出てくる。

中級訓練コースは急な谷を降りるルートになるので今大会では通らずに右側の鉄塔尾根を進む。

分岐から進むと開けた場所に出て**鉄塔**が現れる。ここからは三瀬トンネルのループ橋を見る事が出来る。

鉄塔を通過すると黒い階段が作られた道になる。周囲に注意しながら下っていくとすぐにこの階段の道と右側の登山道の分岐がある。どちらに進んでも国道263号に到着出来るが、階段は急になっており冬場は滑りやすいので、右側の階段ではないルートで進む。

国道263号の手前が**鉄塔尾根登山口**になりゴール。

この後、国道263号を横断するが両方ともカーブとなって車が見えない。特に注意して横断する事。

トイレの横を通過してもう一度、注意して国道を横断すると野河内溪谷駐車場となりこの付近で閉会式を行う。

